

◀ S · E · L · D · A · A ▶ No.40

平成17年5月9日発行

上智大学英語学科同窓会
東京都千代田区紀尾井町7-1
上智大学英語学科事務室気付

Sophia English Language Department Alumni Association

2005年度SELDA A総会および懇親会のお知らせ

日時：2005年5月29日(日) 12:00 ~ 14:00
場所：上智大学第3号館223教室
会費・2,000円(当日お支払いいただきます)

児童文学翻訳家として活躍されている、昭和47年卒の谷口由美子氏による講演会を下記のごとく開催いたします。みなさん、奮ってご参加ください。

日時：2005年6月9日(木) 18:00 ~ 21:00 (18:00開始)
場所：ソフィアンズクラブ
タイトル：「わたしのサウンド・オブ・ミュージック
——— トラップ一家の歩んだ道」
参加費：500円(スナックと飲物代を含む)
申し込み先：参加希望の方は同封の葉書、
または、ホームページ (info@seldaa.net) で、
6月2日までにお申し込み下さい。

<谷口由美子(たにくちゆみこ)氏のプロフィール>

上智大学外国語学部英語学科卒業。児童文学翻訳家。主にアメリカ児童文学の翻訳、研究に携わっている。著書に『長い冬』などローラ物語5冊(岩波書店)、『大空へ・・・ジョージとガンの王子』(あかね書房)、『サウンド・オブ・ミュージック』、『サウンド・オブ・ミュージックアメリカ編』(ともに文芸堂)、『大草原の小さな家・・・ローラのふるさとを訪ねて』、『サウンド・オブ・ミュージックの世界』(ともに求龍堂)、『わたしのサウンドオブミュージック・・・アガテ・フォン・トラップの回想』(東洋書林)など多数ある。



< 英語学科長メモ >

インターネットより抜粋

英語学科長 丹野 眞 (昭和45年卒)

2005年1月5日(水)「賀詞交歓」

松の内ですが キャンパスには学生・教職員が戻ってきました。新年の挨拶を交わす皆の顔を見ると、やはり希望と喜びが感じられます。今年初の科長会。今月中旬、スマトラ沖地震・津波に関するシンポジウム開催を決定。3月新2号館への引越しの詳細な日程が未だに不明。学部長以下今後どのように対応すべきか誰も判らないという異常事態(?)に、メンバー全員の顔が曇りました。

2005年1月27日(木)「新学長」

新学長は、外国語学部アジア文化研究室の石澤良昭さんに決定しました。キリスト教ヒューマニズムを標榜し、どちらかという脱亜入欧路線を歩んできた上智が、アジアに冠たる日本国の大学として、新たな発展をする転換点を迎えたのかも知れません。新学長に心から声援を送りたいと思います。

2005年2月4日(金)「肩書き」

出版社から詫び状が来しました。コンピュータ入力ミスのため、大学教員宛て書状に「～先生」とすべきところを「～様」としたため、複数の教員からお叱りを受けた事に対して宥恕を請う内容です。「様」であろうが「先生」であろうが「教授」であろうが「博士」であろうが、そんな事どうでもいいだろうと思う私の方が世間知らずの非常識大学教員なのではないか? 広大無辺の宇宙エネルギーの微量が肉体という容器に収まった存在でしかない人間存在。私には個人、自己、アイデンティティー、等全く無意味な言葉に思えます。そもそも人間とは何なのか解らなくなりました。もう一度新入生と一緒に「人間学」を受講した方がよさそうですね。

2005年2月14日(月)「バレンタインディ当日」

古屋敷の庭先に、ギターを持って佇む老人の夢から覚めたのが午前2時。老人再び眠りにつくこといと難し。6時35分に家を出、10号館5階に8時45分着。さあ今日は英語学科入試の天王山。埼京線不通のため受験者の遅刻が予想され、2次試験を30分繰り下げ開始。教員一丸となって採点・面接に献身的に精力を注ぎ、4時5分無事終了。ペアーの井上久美さんから、労いの印として3x4x0.5cmの板チョコを頂戴。判定会議と教授会も快く進行。何と5時30分に終了。そこで諦めていた夢が実現出来そうな気配。当日券のあることを神に祈願しつつ、再び品川プリンスホテルへ急行。幸運の女神の微笑みのお蔭で、再びD.F.O.バレンタイン・コンサートを観賞。5人の美女の奏でる愛の楽曲に2時間陶酔。「音楽やってきて本当に良かったと思います」と、感涙に咽び挨拶する我が永遠のアイドル、リーダーのN嬢。ミュージシャンはかつての我が夢、今は叶わず。10時30分品川駅より妻に車の出迎え懇願。願いかなえられず、500ml発泡酒缶片手に徒歩で12時帰宅。アメリカ合衆国より電腦空間を通じて、留学生から電磁波チョコの贈呈。既に娘達、孫娘、ゼミ学生、卒業生から心温まる(?)チョコ贈られる。ということで、今年はこよなく幸せな、しかも長い2月14日を迎える事が出来ました。(2月15日午前2時送信)

2005年2月20日(日)「卒業判定」

明日月曜日から3日間、200人近い14年次生の成績表をチェックして、卒業か留年かを判定しなければなりません。卒業あるいは留年希望者がその通りになれば勿論問題なし。ところが単位不足で卒業出来ない学生と、留年希望なのに卒業単位数を満たしてしまい卒業せざるを得ない学生が出る事は厄介なのです。今年もほぼ確実に該当者が出るでしょう。私も腹を括って一大悲劇に直面しなければなりません。今週は胃炎に苦しむこと必至なり。

2005年3月9日(水)送別会」

3人の英語学科嘱託講師の送別会を、ニュー・オータニ・タワー40Fでランチタイムに開催しました。バーバラ・ブラウンさんは、3年前ご無理をお願いして、学科のため赴任していただいたのを覚えています。ご成婚、イギリスで勉学研究と家庭生活に新たにご出発とのこと。クリス・ロングさんは、2年間学科で教鞭の後、4月からは東北は仙台の大学で、ご家族と共に教員生活を送ることになりました。ロイ・ロツセルさんは3年間英語学科にお勤めの後、仙台の大学で教鞭をとることになりました。週一回上智の公開学習センターで語学講座を担当されるそうです。皆さん、本当に有難うございました。学科へのご尽力、ここに深く感謝いたします

2005年3月17日(木)フォークランド戦争」

現在英語学科クラス指定必修科目は、ネイティブの先生による「イングリッシュ・スキルズⅠ、Ⅱ」_{Ⅰ、Ⅱ}、「英作文Ⅰ、Ⅱ」_{Ⅰ、Ⅱ}、「英米文化入門」の5科目です。かつては日本人教員担当の「英語学」がありました。ニューズウィーク誌をテキストにした時事英語講読科目です。国際政治に疎い私には、教えると同時に勉強になる授業でした。1982年フォークランド戦争の記事について、教室で学生と熱い議論をしたのを覚えています。今日TVの画面には、日本製品不買運動を叫ぶ人々の顔が大写しにされていました。

『上智大学英語学科 親睦会 12月4日』

片野 順子 (昭和52年卒)

上智大学英語学科の親睦会に出席した。同窓会から送られてくるニュースレターや、ホームページにもこの会の案内が掲載されていたので、もっと多くの人が参加するかと期待していたが、実際には40人程度で、知人がほとんどいなくてちょっとがっかり。しかし、ニッセル先生、バリー先生、ミルワード先生、松尾先生グラチアーノ先生にお会いできてとても嬉しかった。特にニッセル先生とバリー先生は、私の父親のような存在だ。学生時代から多くのことを教えていただいたし、卒業後も、個人的にお付き合いさせていただいている。英語学科は、日本の英語教育の最先端をいく学科として、一時は東大より入学が難しいとささやかれていた時期もあったが、現在では、帰国子女の増加と、駅前語学スクールの登場で、「英語学科」自体の特徴が今一つはっきりしないという批判もでてきている。「英語学科」自体の特徴が今一つはっきりしないという批判もでてきている。「英語学科」というブランド名はもう過去のものになりつつあるのか。しかし、学生時代を振り返ってみるに、あのアカデミックな教授たちの授業は、ただ、英語を教えるだけという教育ではなかったように思う。各授業に、神父様をはじめとする教授たちの、教育に対する真摯な姿勢と、それにこたえようとする学生の熱意が溢れていたように思う。新しい時代に沿った教育内容がこれからどんどん必要になってくるであろう。今後の学科に必要なものは何か？あー、まさに今こそ英語教育のバイブルたる本を作るべきではないだろうか。ニッセル先生のユーモアを交えたスピーチを聞きながら、「先生のスピーチは最高だ」と思いつつ、先生の元気なうちに、「上智大学英語学科の英語」という本を出版できたらいいなと強く願った。



『まずくてありがとう—— 爆笑エッセー from カナダ』

長谷川 真弓 (昭和38年卒)



皆様お元気でいらっしゃいますか。今日3月18日(金)は私の最後の勤務日でした。机上のパソコンプラグを外し、無限大の記号みたいにコードを手繰り寄せていたら、卒業生がやってきました。「今年で辞めるって聞いたから、これプレゼント。NASAでもソユーズでも使用済み」と彼女が取り出したのは無重力、無気圧対応フィッシャーのスペースボールペンでした。「これからは2冊目の本の取材旅行でしょう?それも宇宙の。もうすぐ冥王星とかに出発しそうで急いだのよ。間に合ったのね。ああよかった。もしかしてメーテルと私を同じカテゴリーに入れてる?なかなかいいセンスしてるわよ。それともただのETとしてさっさとあの世に戻れてこと?私のしごきを乗り越えて朝日英文エッセーコンテストでオーストラリアに行き今は上智の新聞科でライターを目指す弟子です。

93年カナダから帰国し、University of British Columbia(UBC)での専攻を生かして横浜隼人高校でspeech & essay writingの指導を開始して10年、全国コンテストの優勝、入賞者は300名を越え、打率日本一。正真正銘のWinner引き受け人をしてきました。UBCの指導教授から、writingの指導をしたいなら、先ず自分がライターであるべきと言われ、カナダの雑誌にエッセーを連載したところ、現地で大ブレイク。昨年8月、92年から94年までの分を一冊の本にまとめ「まずくてありがとう——爆笑エッセー from カナダ」というタイトルでバンクーバーのフレーザー出版から出版しました。外国の出版コードであったため日本の書籍流通業界から全面拒絶にありましたが、同級生の皆様はじめ友人達の熱い支援の輪のおかげでどんどん売上げを伸ばし巷に衣今長谷川流超ウルトラ楽観主義のブームが起きるに至りました。つい声をあげてしまうから電車では絶対読むな、いちいち家族に説明しなければならぬから家で読むときはこもって読め、頭の回路を切り替えたら世界が「ベツモン」になったなど感想メールが続々届きます。この8月には開拓社から第2版がでることになり、目下追加ページのイラストを描いています。まだご覧いただいていない方は是非開拓社版で抱腹絶倒の世界をご体験下さい。今春から連載を再開し来年には「まずくてありがとう——2」を出す予定です。お楽しみに。

『空回りに奮闘！！』

諏訪部 洋明 (平成元年卒)



ソフィア卒業後、早17年。四ッ谷へ赴くことも同級生の結婚式以来遠のいています。途中5年程度のロサンゼルス駐在を経て、同窓会への住所変更も怠り、懺悔の意味も込めて寄稿をさせていただきました。

在学中は分からぬものですが、今思うに、ファーザー・ニッセルのゼロ時限の特別授業を始め(成果をお見せすることはできませんでしたが)、多くの方々にご恩を感じずにはいられません。卒業後は某クレジットカード会社で良い上司に恵まれ、周りの人たちに文字通り暖かな眼差しで見守れながら希望だった米国の職場に送り出されました。そこでも現地スタッフや先輩達に恵まれ、日本以外のものの考え方に接する機会を得られました。

今、40名弱の部門責任者として海外のシステム構築に奮闘していますが、人を見る段になり、今更ながらにこれまで出会った人々のありがたみを感じています。知らず知らずの間に自分を育ててくれた人たちへパトタッチしなければ。仕事の成果以上に、人としての満足感を得るべく日々空回りで頑張っています。

『エヴァレット神父様のこと』

東(岡沢)良子(昭和40年卒)



エヴァレット神父様は、私にとりまして特別な存在のお方でした。神とは、人間とは、愛とは、アイデンティティーとは、等々……生まれて初めて、「考える学問」を教えてくださいました。お棺の中で、神父さまは愛用の銀縁めがねをお掛けになられたまま永遠の眠りについていらっしゃいました。元より小さめのお顔は、めがねの奥で、ますます小さくなられたように感じましたが慈愛に溢れたお顔の表情は、何ひとつお変わり無いと思いました。暖かさうな紺色の靴下を履かれたおみ足は、以外な程にふっくらと大きく感じました。このしっかりとしたおみ足で、神様の御元に昇られるのだと確信したことでした。私はそのおみ足の傍に白いトルコ桔梗の花を添

えさせて頂きながら胸の中で、感謝の言葉を述べお別れをさせていただきました。

長く隣室同志であり、友人関係でもあられた神父さまの結びの祈りのお言葉には胸が打たれる想いが致しました。晩年のエヴァレット神父様は、ロヨラハウスにて妄想の中に居られたそうですが、その事をご友人であられる神父様は「聖イグナチオの祈り」の教えから次のような御言葉を献られておりました。エヴァレット神父様は愛あるそのご生涯を神様にお捧げになられたのですが最後には「記憶も知恵も全て捧げられてしまわれた。」という事でした。私達は老人特有の症状を、安易に という言葉の発するニュアンスを、私達はもっと考えなければいけないと思いました。「愛のみならず、記憶も知恵も捧げられた。」という美しい言葉をお教え戴いて、感動致した事でした。

卒業生短信

月上旬までに事務局に届いたお便りを掲載いたします。(本文中では敬称を略しております。ご了承ください) 皆様からのお便りを募集しております。ご自身の近況、自著の宣伝等、なんでも結構です。同封の葉書に書いて、同窓会事務局までお送りください。

まだまだ元気だ団塊世代！！

株式会社 アンダーナ

代表取締役社長 **山本哲朗**(昭46年卒)

卒業以来、複数の事業会社を転々とした後、40にして経営コンサルタントに転じ、その後アーサー・アンダーセンに移り、ワールドワイドパートナー、朝日(現あずさ)監査法人パートナーを歴任。エンロンに端を発したアンダーセンの解散という事態に遭遇し、その秀逸なビジネスコンサルティングのノウハウを絶やしたくないとの思いで、ANDERSENのDNAを引き継ぐ意味を込めてANDNAを2003年8月に設立しました。

企業のさらなる進化と成長に向けて継続的な企業変革の支援を主業としています。戦略の見直しや業務プロセスの改革に止まらず、人の意識・行動、そして組織風土の改革も実施し、目に見える成果を出すよう実践的コンサルティングを目指します。『いろいろ取組んでいるが、どうもうまく成果が出ない』のサポートをします。(株)アンダーナの発足にあたって、社名ロゴ、会社案内、ステーションナリー類の制作には同窓の鷹野富司君に種々企画・制作のお手伝いを頂きました。現在、六本木ヒルズ森タワー内で順調にやっています。

03 - 3479 - 8333 E-mail tetsuro.yamamoto@andna.biz
Hp www.andna.co.jp

株式会社 エス・アイ・シー

取締役企画部長 **鷹野富司**(昭45年卒)

卒業以来、電機メーカー、総合広告会社、翻訳会社を経る間に各種の業界に触れる機会に恵まれました。特に総合広告会社では約20年間の長年にわたり勤務し、そのノウハウとネットワークを活かして友人と2人で広告の企画・制作及び販売促進のプランニングを通して企業価値の最大化を図ることとミッションとする会社を2004年4月に設立しました。企業(Corporation)とそのブランド(Brand)の価値を消費者に効果的にコミュニケーションする業務を主業としています。企業理念として「理性」に基づく企画・プランニングと「感性」に訴える制作・販売促進を目標に企業の商品・製品の『どうしたら売れるのだらう』を広告企画・販売促進面でサポートします。前出、同窓の山本哲朗君の会社設立にあたって、(株)エス・アイ・シーがコーポレート・アイデンティティ管理の下に企画・制作をお手伝いしました。現在、渋谷宮益坂で元気にやっています。

03 - 5778 - 3445 E-mail takano@sic-1.com

Hp www.sic-1.com

「大学入試問題」について

私は、20余年を外資系金融機関で働いた後、英語の総合コンサルティング会社を設立し、今年で10年年目を迎える者です。この間、Business peopleにTOEIC, business writing等を、まだ小学生から大学生そして主婦を対象に彼らの色々なニーズに応える英語の授業を行ってきました。そういった経験から日本の英語教育全般に関連したいいくつかのトピックスについて考えを述べさせていたきたいと思えます。ちょうど季節柄、時宜にかなっていると思うので、初回は大学入試問題(以下入試問題)を取り上げます。結論を言うと、入試問題は各大学がどのような学生をとりたいたいのかというメッセージを明確に強力に受験生や高等学校そして広く一般社会に向けて送るよい機会ではないか、またそうあるべきだ、ということです。こう考えると入試問題とは各大学が自分の大学の現在・未来についてどういう方針・哲学を持っているのか、言い換えると、如何なる社会貢献をしようとしているのかを社会に鮮明に訴える機会でもあるのです。そういった観点からすると、近年大学によっては、入試問題を大手受験予備校や歴史出版社に依頼して作らせることじゃ自校の独自性の放棄と良質の問題を作れない無能さを明らかにすることとなり、しいては大学の存在理由にも関わるのではないのでしょうか。それならいっそセンター試験で足切りをして、二次試験で少数精鋭者に対

し質の高い論述問題などを課すぐらいの情熱を傾けて、大学一丸となって入試問題に取り組む姿勢をぜひ各校とも見せてもらいたいものです。またそれだけの価値があると思えます。ここで、私の教える英語の入試問題について言及します。毎年、各受験生の志望校・学部過去の問を4～5年分生徒に解かせ、私自身も答案を作り、解説します。受験生それぞれ志望校が異なるので、学部学科数は国公立合わせて60～70を下りません。すると以下のような傾向が入試問題に見えます。

1. 英語という科目を通して受験生の全般的思考力を考慮する問題
2. 高度な英語の読解・運用能力を見る問題
3. 基本的な英語総合力を見る問題
4. 上記いずれにも入らない、わけのわからない問題(これが一番多い)また上記1～4が長年一貫している「伝統校」と数年おきに変わる学校に大別できる。そして上記いずれが良いか悪いかは一概には言えず、ある年は受験指導者を納得させるような良問が出たかと思うと、翌年は全く納得のいかない出題があったりしている。これは解答が複数考えられたり、質問自体の趣旨が不明確なために何と答えてよいかわからない出題で、国立に見られる。また一部の医科大・歯科大の問題を見ると、これでは将来の立派な医師が育つはずはないと思

われるものが多々ある。こういった様々な問題に毎年取り組んでいて、最近思うことは、出題者の方々は日頃どの程度出題問題を研究されているのか、また、その出題問題を見ると、出題者の力量が推測できるということである。日頃中・高生に接していると皆個性豊かで、優れた感受性を持つ金の卵ばかりである。こういった若者を受け入れる大学側は真摯に真正面から彼らの挑戦を受け止めるような入試問題をぜひ出して欲しいと切に願う次第である。

長野 省三 (昭和48年卒)

小生去る6月24日開催された株主総会をもって常務取締役を任期満了に伴い退任すると同時に(株)ニデックを退社しました。

今は表記住所(省略)に新たに居を構え、自然体を旨として素朴で気のおけない地元の人達との交流を含め、平凡ながら明るく心穏やかに日々を過ごしています。環境は赤城、榛名両山の丁度懐あたりに位置し、利根川上流も間近、鮮やかな紅葉に彩られつつありますが、寒さも日々厳しさを増しています。想いおこせば40有余年にわたるサラリーマン生活だった訳で様々なことがありましたが、なんとか勤め上げることが出来たのも周囲の人達の暖かい支援、協力のお陰と心から感謝する次第です。また上智を卒業したことは小生にとってその後の生き方等に大きく影響していることに併せて感謝する次第です。後輩の皆さんの頑張りもあり、上智大学外国語学部英語学科を卒業したことは小生にとって誇りとなっています。今後益々のご発展を祈念いたします。

佐々木 雅之 (昭和37年卒)

2004年4月より英国ウィンザーに居を構え、二度目のロンドン勤務。米国ニューヨークを振り出しに四回目の海外出向。すぐろくのががりは、また米国かなと50を目前にして少し疲れ気味。今回は家族共々、娘が大学へ進学するまでの2年半、存分に英国暮らしを楽しもうと思っているのですが……当地ロンドンでは、なんと毎月ソフィア会が開催されていてビックリ。皆様ご活躍のご様子。銀杯で久しぶりに集合した同窓の皆様、訪英の折は気軽に連絡を下さい。幹事の木村さんが全てご存じですので。

廣瀬 一郎 (昭和53年卒)

中年になってオックスフォード大学に留学し8年がかりで博士号を取得しました。その論文がRoutledge社より、“Grassroots Pacifism in Post-war Japan: The Rebirth of a Nation”というタイトル出版されました。欧米だけでなく日本にも戦後活発な平和運動があり、そして一般の日本人の戦争・平観を海外の人々に知ってもらいたくて書きました。内容は60年安保闘争までの労働組合と普通の主婦の平和運動です。日本の平和運動の歴史を知る上で入門書とな

ると思われます。どうぞ、お読みいただけましたら光栄でございます。

山本真理 (昭和56年卒)

2004年10月に、『サンタクロースがかぜひいた!』(ジュリー・サイクス文・ティム・ワーンズ絵文・深澤)上梓いたしました。

河本 祐子(旧姓:笹山) (平成1年卒)

36年外英クラス会の2005年幹事は小生が担当しますので、よろしくお願い致します。

〒183-0003 東京都府中市朝日町1-15-1

tel.042-368-8874(ファックス兼用) E-mail:m-morisawa@nifty.com

森澤正好 (昭和36年卒)

『久しぶりに母校を訪れて』

早いもので、上智を卒業してもう4度目の春を迎える。先日、SELDAA設立20周年の会合に、久しぶりに四谷駅に降り立った。学生時代には無かった建物がちらほらと、大学構内に入るなり完成間近の「2号館」なるものを見るにつれ、私は「変わってしまったもの」に圧倒されて、にわかに「よそ者」になった気持ちになり、少々身構えた。だが、それは全くの杞憂だった。会場となった上智会館の会議室に入ると、そこには「変わらないもの」があった。そこはまるで久しぶりに集う家族の集まりのように温かく、初めて会う者同士でもまるで兄弟親族のような気持ちで接することができた。それは「ソフィアン」という大きな家族の集まりだった。文字通り、老若男女が集まっていたが、年齢や性別などは全く会話を妨げるものではなく、とても気持ちのよい、そして発展的な会合であった。今後、この集まりがより大きなものとなり広がっていくことを願うばかりである。

林めぐみ (平成13年卒)

皆さん、こんにちわ!3月11日にソフィアンズクラブで行われた浦元義照さん(駐日ユネスコ代表)の講演会を機に何人か連絡・都合がついた方だけ集まりました。机に向かって彼の熱心な話を聞く姿は昔の教室風景そのままでした。次の機会はもっと皆で集まったら楽しいだろうなと思いました。人生いろいろあっても一緒に年を取って行けると言うのは嬉しいですね。近いうちにまた会いましょう!(まずは5月のSELDAA総会の場では如何ですか?)

池沢なるみ(昭和48年卒)

異動通知にご協力ください

ご住所、勤務先などに変更があった方、名簿の誤りを訂正される方、お名前の正しい読み方を知らせてくださる方は、英語学科同窓会事務局またはソフィア会事務局までお知らせください(英語学科同窓会事務局にお知らせいただいた場合、ソフィア会事務局にも通知しております)。

住所不明の方が多数いらっしゃいます。消息をご存知の方、情報をお寄せください。お友達で会報が届いていないという方がいらっしゃいましたら、是非事務局までご一報ください。

また、最近では市町村合併などによる住所の変更が多くなっております。是非最新の住所、電話番号等をお知らせください。

住所・勤務先の変更等は、同封の葉書をお使いいただくか、SELDAAのホームページの「住所・勤務先変更フォーム」(http://seldaa.net/about/change_form.html)から送ってください。

SELDAA より、募集とお知らせ

SELDAAでは、皆様よりこの会報に載せる記事を募集しています。近況や最近感じたことなど、何でも結構です。書式は自由ですので、同窓会事務局宛にどしどしお送りください(写真も大歓迎)。

この同窓会の常任委員として手伝ってくださる方を募集しております。ボランティアで私達と一緒に会を盛り上げてくださる方、ご連絡をお待ちしています。

上記に関するご応募・お問い合わせはこちらまで。

連絡先: 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学英語学科事務室気付 上智大学英語学科同窓会事務局
FAX.03-3238-3910 E-mail:info@seldaa.net
(Faxは、英語学科同窓会宛を明記してください。)

会費納入のお知らせ

本会の諸活動は、卒業生の皆様からの会費の納入によって賄われています。同窓会活動のより一層の充実と活性化を図るために、ぜひ会費をお支払い下さいますようお願い申し上げます。

会費の支払方法には、毎年会費を支払う「一般会員」と、一括払いの「終身会員」の2通りがあります。初めて会費をお支払いになる際には入会金も合わせてお支払い願います。金額は下記の通りです。同封の振替用紙にて最寄りの郵便局または銀行よりお支払いください。その際、ソフィア会会員番号を必ずご記入ください。(なお、振込用紙は、発送の都合上すべての方に送っておりますので、ご了承ください。)

入会金 : 1,000円
一般会員 : 年会費 2,000円 (できれば3年分まとめて)
終身会員 : 一括払い 20,000円

あなたの会費納入状況

封筒の宛名ラベルの右上に「未」のスタンプが押してあるのは、今年度の会費が未納になっていることを示します。なお、終身会員を表わす「S」のスタンプは、2003年度後半より廃止しました。

6,000人を超える同窓会会員の会費納入状況のチェックには多大な手間と時間がかかります。同窓会ではコンピュータ化による事務の簡素化に務めています。

SELDAA 常任委員 (2005年3月現在)

名誉会長 / 丹野 眞 (英語学科長)
会 長 / 石川 雅 弥 (昭和40年卒)
副会長・事務局長 / 池 沢 成 実 (昭和48年卒)
副 会 長 / 大日方聖信 (昭和62年卒)
会 計 / 東郷公徳 (昭和62年卒)
会 報 / 佐藤誠一郎 (昭和53年卒)
常任委員 / 飛弾 誠 (昭和53年卒)
 根本竜太郎 (平成15年卒)
 林めぐみ (平成13年卒)
監 査 / 井坂由美子 (昭和47年卒)
 岩 村 玲 子 (昭和49年卒)